

【書籍】

- 東京書籍商組合 編『東京書籍商組合史及組合員概歴』東京書籍商組合事務所、1912
- 朝野蝸牛 編『江戸絵から書物まで』1934
- 橋本求『日本出版販売史』講談社、1964
- 宮尾しげを『日本の戯画―歴史と風俗』第一法規出版、1967
- 永田生慈『資料による近代浮世絵事情』三彩社、1992
- 鳥越信『はじめて学ぶ日本の絵画史 I：絵入本から画帖・絵ばなしまで』ミネルヴァ書房、2001
- 柴野京子『書棚と平台：出版流通というメディア』弘文堂、2009
- 岩切信一郎『明治版画史』吉川弘文館、2009
- 鈴木俊幸『絵草紙屋 江戸の浮世絵ショップ』平凡社、2010
- 佐々木果『まんが史の基礎問題：ホガース、テプフェールから手塚治虫へ』オフィスヘリア、2012
- アン・ヘリング『おもちゃ絵づくし』玉川大学出版局、2019

【論考】

- アン・ヘリング「おもちゃ絵考」『季刊銀花』(21)、1975
- 上笙一郎「日本児童出版美術史 6 <おもちゃ絵>の世界」『日本児童文学』37(7)、1991
- 湯本豪一「明治ポンチ本一覧」、『川崎市市民ミュージアム紀要』(5)、1992
- 宮本大人「湯浅春江堂と榎本法令館：近代における東西『赤本』業者素描」、日本出版学会・出版教育研究所編『日本出版史料 5』日本エディタースクール出版部、2000
- 宮本大人「不純な領域としての成立―『漫画』の起源―」、『週刊朝日百科・世界の文学』(110)、2001
- 宮本大人「『ポンチ』から『漫画』へ―ジャーナリズムと『美術』の間で表現を磨く―」、『ビジュアル・ワイド 明治時代館』小学館、2005
- 岩切信一郎「大倉書店の形成―大倉孫兵衛の明治期出版動向―」『大倉山論集』(54)、大倉精神文化研究所、2008
- 三宅興子「絵本・絵雑誌とポンチ」、三宅興子・香曾我部秀幸編『大正期の絵本・絵雑誌の研究：一少年のコレクションを通じて』翰林書房、2009
- 清水勲「ポンチ：海外からの影響」、竹内オサム・西原麻里編著『マンガ文化 55のキーワード』ミネルヴァ書房、2016

【展覧会図録】

- 『日本の漫画 300 年展』川崎市市民ミュージアム、1996
- 『学びの風景 明治のおもちゃ絵・絵双六に描かれた教育』玉川大学教育博物館、2008
- 『鈴木コレクション おもちゃ絵の世界』玉川大学教育博物館、2010
- 『日清・日露戦争とメディア』川崎市市民ミュージアム、2014
- 『子ども / おもちゃの博覧会』国立民族学博物館、2019
- 『のらくろであります！ 田河水泡と子供マンガの遊園地 <ワンダーランド>』川崎市市民ミュージアム、2019